

川口市立医療センター広報紙

花水木

H a n a m i z u k i

特集

最新の不整脈治療

～パルスフィールドアブレーションとは～



2026
春号
Vol.72



川口市立医療センター・イメージキャラクター

みみたくれ

病院公式
Instagramの
フォローを
お願いします!



基本理念

市民に信頼され、
安全で質の高い
医療を提供します

最新の不整脈治療 ～パルスフィールド アブレーションとは～

循環器科・不整脈専門医 磯 一貴



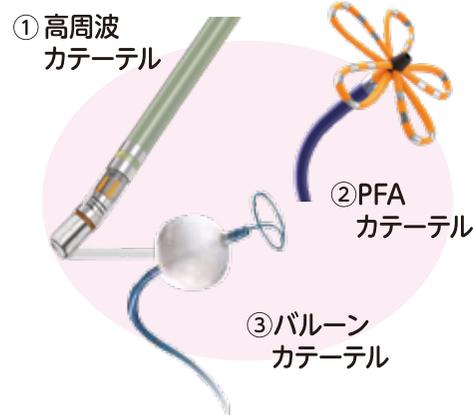
心臓を動かす「電気」と「不整脈」

心臓は、規則正しい電気信号が心筋に伝わることで拍動し、全身に血液を送り続けています。この電気の流れが乱れることで起こる病気が、「不整脈」です。不整脈には多くの種類がありますが、近年特に増えているのが、脈が不規則になる「心房細動」です。心房細動は、直接命に関わることは少ないものの、放置すると心不全や脳梗塞の原因となるため、注意が必要です。最近では、テレビコマーシャルや有名人のニュースなどの影響もあり、幅広く認知されるようになりました。

る治療として確立しているのが、カテーテルアブレーションです。これは、足の付け根などから細い管を心臓内に進め、不整脈の原因となる電気異常の発生部位を治療する方法です。

従来のアブレーションでは、高周波（熱エネルギー）や冷凍などを用いて組織を変化させる方法が主流でした。これらは多くの実績を持つ優れた治療法ですが、熱を用いる以上、食道や神経、血管といった、心臓周囲の臓器への影響が避けられないという課題がありました。

様々なアブレーションカテーテル



現代病「心房細動」とその治療

心房細動の治療は、薬物治療と「カテーテルアブレーション」が中心です。薬は症状を和らげたり、脳梗塞を予防したりする重要な役割を果たしますが、不整脈そのものを完全に治すことは困難です。現在、心房細動を根治できる可能性があ

画期的な新技術：パルスフィールドアブレーション

熱アブレーションとの比較



熱アブレーション (RF/Cryo)

全ての組織に対して無差別に損傷を与える為、近接する横隔神経や食道などの組織も潜在的に損傷を受ける可能性

パルスフィールドアブレーション (PFA)

心筋組織に選択的に影響を及ぼし、近接組織への影響を避けることが期待される

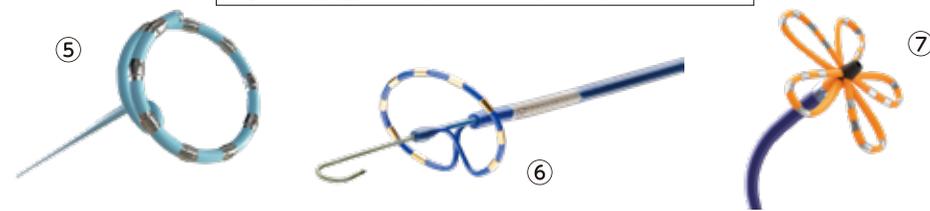
こうした課題を背景に登場したのが、「パルスフィールドアブレーション (PFA: Pulse Field Ablation)」です。PFAは、「電気力で心筋だけを選択的に治療する」という、これまでとは全く異なる発想のアブレーションです。きわめて短時間の強い電気パルスを加えることで、心筋細胞の膜に微小な変化を起こし、細胞を機能しなくさせます。この現象は「不可逆的電気穿孔」と呼ばれ、熱や炎症をほとんど発生させない点が最大の特徴です。

PFAの大きな利点は、心筋に対する選択性の高さです。心筋細胞は

電気パルスに敏感である一方、食道や血管、神経といった周囲の組織は影響を受けにくいことが分かってきました。そのため、従来法に比べて周囲臓器へのダメージを抑えながら、効率よく治療を行える可能性があります。国内外の臨床研究では、安全性と有効性の両面で良好な成績が報告されており、心房細動治療の新たな選択肢として急速に普及しつつあります。

また、PFAは一度に広い範囲を治療できるため、手技が比較的シンプルで、治療時間が短いことも特徴です。患者さんの身体的負担

様々な形態があるパルスフィールドカテーテル



が軽減され、術後の回復が早い点も大きな利点です。当院でもこの治療を受けられる患者さんが増えており、近隣の先生方からの紹介も多くいただいています。

適切な治療を適切なタイミングで受けるために

現在の日本は、医療費が年々増大しており、政府は国民一人ひとりが健康管理に取り組む「セルフケア」を推進しています。これは、早期発見・早期治療によって元気でいられる「健康寿命」を延ばすことができ、結果として各家庭の医療費の軽減にもつながるという考え方です。

心房細動は、放置して心不全や脳梗塞を発症してしまうと、厳しい運動制限や食事制限を余儀なくされたり、麻痺などの後遺症が残ったりするなど、健康寿命を著しく短

縮させる恐れのある疾患です。そのため、早期に介入するメリットは非常に大きいと言えます。一方で、自覚症状のない「無症状の心房細動」が決して珍しくないことにも注意が必要です。

自覚症状がない段階での早期発見は、容易ではないからこそ、私たちは毎年の健康診断や「自己検脈」の重要性を広く啓発しています。最近では、家庭用血圧計やスマートウォッチなど、不整脈を検知できる機器が増えてきました。こうしたツールで心当たりがある方や、すでに診断を受けて詳しく話を聞いてみたいという方は、是非かかりつけの先生をご受診し、当科へご紹介いただくようご相談ください。



画像提供

- ①⑤ : ジョンソンエンドジョンソン株式会社 メディカルカンパニー
- ②④⑦ : © 2026 Boston Scientific Corporation. All rights reserved.
- ③⑥ : 日本メドトロニック株式会社



紹介外来Web予約システム「やくばと」で、スマートフォンやパソコンから24時間365日予約申込が可能になりました

対象

他院からの紹介状をお持ちの外来患者さん（一部の診療科を除く）

予約取得可能な日にち：入力日より開院日の3診療日以降

利用方法：QRコードからアクセスし、画面の案内に沿って予約



※Web予約対応不可の診療科の紹介状をお持ちの方および、インターネット上での操作に不安がある方は、平日8:30～17:00にお電話(048-280-1565)での予約をお願いします。

患者支援センター 地域連携担当

高校生
向け

ダビンチ体験会を実施しました



当院が手術支援ロボット『ダビンチ』を導入してから3年が経過し、累計実施件数は100件を超えました。低侵襲で精度の高い手術を実施することにより、



市民の皆さまへ安全で質の高い医療を提供できるよう、日々研鑽を重ねております。

さる2026年1月17日(土)、ダビンチをはじめとする当院の手術部門の技術や先進システムの魅力をアピールするため、医師など医療従事者を職業として目指している、川口市立高等学校1・2年生を対象に体験会を実施しました。

泌尿器科・消化器外科の医師によるダビンチ操作体験や腹腔鏡操作体験、VR体験、看護師などによる手術室看護体験を、高校生14名が手術着に着替えて、手術室で体験してもらいました。



参加した生徒からは、「何もかもが新鮮で、ダビンチの体験だけでなく、心電図や腹腔鏡操作といった体験もでき、有意義で楽しい時間だった」「より医師になりたいという意向が強くなる、大変有意義な機会だった」など…喜びや感動の声が数多く聞かれ、私たちスタッフも今後の業務の励みとなりました。

熱心に医師や看護師、技師の話を聞き、時には自ら質問しながら積極的に操作体験を行う生徒たちの姿は、これからの日本の希望そのものです。

今後もこのような体験会を計画予定ですので、是非、当院公式Instagramをフォローして、活動報告をお楽しみください♪



体験会の詳細な
様子はコチラ

